

# 小学部四年C組

あせの川

野ぞえ 陽呂

「おーー」  
夕日をバックにさげんでいる

川のようなあせが体をめぐり流れるようにおちてくる

あせよ いや川がじゃまだ

「カキーン」

良い音を鳴らしてボールが飛んでいく

ああ あせよ とても気持ちいいよ



水泳チーム 「MAGNOLIA」

酒巻 桜子

私は、夏休みの間、一時帰国の時以外は一回も休まずに水泳に行きました。

私は、「MAGNOLIA」と言う名前の競争するチームに入っています。MAGNOLIA高校の水泳部のチームです。二つのコースがあつて、まだクロールなどをコーチに教えてもらえないコースと、四泳法のテストを受けて、合かくした人だけが入れれる選手コースで、レースなどをたくさんするコースです。特に選手コースは十コースあつて、最初は一番下のクラスだったけれども、うれしい事に、この絵日記を書く一日前に一つ上のクラスに上がりました。始めたのは四か月前で、たったの四か月でできた、と思つたら、うれしくなりました。けれど、少しだけ不安になりました。なぜなら、一番下のクラスでさえ一位になれないのに、もう一つ上のクラスに行つたら、もっとハードだと思つたからです。陸上で言うじゅんぴ体そうはかん単ですが、水泳のウォームアップは二百メートルのクロールと二百メートルのバタ足です。

夏休みの練習でつらかつた事は、毎日練習がある事です。毎日あると、足がつかれたり、うでがつかれたりする事があります。そして、一番はひれずれです。ひれずれの意味はひれがびったりかかかについているので、たまに皮がむけてしまうということです。

うれしかつた事は、自分が水の中ですると回転した時、水の中から見えた景色がきれいだった事です。反対に回つてみたら、自分が最初見ていた所と反対の場所が見えるから、面白いです。

水泳を夏休みにがんばつたかがあります。秋からも上のクラスでがんばります。

## 海外生活でけい験したわすれられない出来事

かとう あきは

わたしが日本でけい験したわすれられない出来事は、学校で自分たちでそうじをして、とてもこしがいたかった事です。

わたしは二年生の夏休みに日本で初めて小学校にたいけん入学しました。アメリカでは、ジャニターというそうじをする人がいます。そのため自分ではそうじをしません。ですから、日本では自分たちでそうじをしないではいけない事におどろきました。日本に行つて初めてのそうじは、ぞうきんでそうじをする事でした。ぞうきんを使うのは初めてだったので、もちろんこしがいたくなりました。一週間後は、ほうきでそうじをしました。わたしはせいが高いので少ししやがまなといけなくて、こしがいたくなりました。見た目は何ともありませんでしたが、立ち上がると、とてもいたかったです。日本で子どもたちにそうじをさせる理由は、たぶん子どもたちがしょう来はたらける方法をふやすためだと思います。

わたしは、自分たちで学校のそうじをするのはいやです。なぜならこしがいたくなるからです。

## 日本の学校へ行った

古川 千歳

わたしは、一時帰国で日本の学校に行きました。最初はきんちようしたり、なつかしいなと思いました。四年生なのでアメリカに行く前の一年生とは全くちがいました。中でも一番ちがうなと思つたのは、教室のい動です。なぜかという、図工室は一階へい動しました。理科室は、四階へい動しました。すごく大変でした。次に大変だったの

は、そうじの時間でした。なぜかという、ほうきですみずみまでそうじするのがわたしにとってすごくむずかしかったからです。他にも色いろやりましたが、わたしにとってむずかしかったのはこの二つでした。

一番楽しかったのは、内ようがとても楽しかった理科でした。

## すてきな水族館

キャロウ アレクシス

今日は七月十七日です。今は日本にいます。友達といっしょに水族館に行きました。三十分電車に乗つて、池ぶくろにいきました。

私は、最初のタンクから写真をとっていました。左の絵は私がとつた一つの写真です。

この水族館は、中と外があるのです、中は魚がいっぱいいて、外はペンギン、ペリカン、アシカ、アザラシとカワウソがいます。外に出口と、出口ではないけどドアがあります。出口ではない方へ行くと、また中に入る道があります。そこへ行ったら、何回も回れます。私たちは二回、回りました。二回目に回ったら、ママがギフトショップでペンギンのおもちゃを買ってくれました。

とても楽しかったし、いろんな動物がいてきれいでした。みんなも日本に行ったら、ぜひ行ってみてください。



## 一時帰国の思い出

吉田 光樹

ぼくは一時帰国で、友だちの家族と「八天どう」というクリームパンで有名な工場で、いろんな体験をしました。

まずパンで出来た置き物のような物を作りました。とてもかわいくできてうれしかったです。他にもVRで工場見学をしました。

ぼくが一番面白かったのは、まずパンだけを食べるということですが、クリームも一緒についてきましたが、まずパンだけ食べてみると、とてもおいしかったのです。次にクリームを食べてみると、めちゃくちゃうまかったです。というのも、ぼくはクリームが苦手なのです。しかし、このクリームは、今まで食べたことのないプリンのような味でした。

最後に、おみやげとしてクリームパンももらえて、最高の一日でした。

アメリカ生活を送ったこと

大野 こう平

ぼくがアメリカ生活を送って一番おどろいたことは、お金がけずれているものがあつたことです。なぜなら、日本のお金はけずれているものがそんなにないからです。

くやしかったことは、英語がぜんぜんわからないから、なにもできなかつたことです。でも、友達や先生が助けてくれてできたこともありました。

## ニジマスつり

萩原 千晴

七月二十二日、家族でおくたまにニジマスつりに行きました。

わたしは昼すぎにおくたまに着きました。でも天気が悪くなつてしまったので、お昼ご飯にうどんを食べに行きました。食べ終わった時には天気が良くなつて、行くはずだったところとちがうつり場で、つりができることになりました。

ニジマスのエサは、二種類あります。一つ目は、エビのすり身をお団子にしたものです。二つ目は、ブドウ虫という虫です。お母さんははりにつけようとしていた時、ちよつとさけんできました。わたしは気持ち悪くてさわりたくなかつたので、おじいちゃんにつけてもらいました。

一番最初につれたのは、おじいちゃんでした。わたしはつれなかつたけど、全部で六匹つれました。つりが終わった後、内ぞうを取って、身を塩づけにしてみました。

家に帰ったら、おばあちゃんがニジマスを焼き魚にしてくれて、おいしかったです。またつりをして、焼き魚を食べたいです。

グランピング2025

谷内 健人

ぼくは七月二十三日、京都にグランピングに行きました。

キャンプ場まで車で行きました。着いた時、ぼくが思った大きさより大きかったです。

最初、ぼくはただのキャンプかと思いましたが、中に入ってみると、エアコンとか冷ぞう庫とかふつうのキャンプには無いものばかりでした。

た。

次に、ぼくはバーベキューをしました。キャンプ場では、野菜が選ばれました。野菜がいっぱいあったので、とりあえず全部とって焼きました。肉はもうかばんに入っていたので、肉も焼きました。

その次に、ぼくはプールと温せんに入りました。最初にプールに入りました。広かったです。学校のプールより大きい気がしました。プールに一時間くらい入ったら温せんに入りました。温せんは中に三つ種類があつて、外には四つありました。三十分くらいつかっていたらまたプールに入りました。

## 夏のアラスカ

塚本 一翔

ぼくは、夏休みにアラスカに行きました。

まず、アンカレッジ空港に着いて、白夜という夜になっても空が明るいげんしようにおどろきました。

二日目は、家族でハイキングへ行きました。もう夏なのに山の上には雪がありました。川の水は、すごく冷たかったです。

三日目は、氷河クルーズツアーへ行きました。アザラシやラッコ、そして、氷河が海に落ちるところが見られてよかったです。

四日目は、デナリ国立公園に行きました。その道中でピクニックをしました。その日は、デナリの近くの山小屋にとまりました。

最後の日は、デナリからアンカレッジまで車で四時間かかりました。ぼくがこの旅で一番楽しかったことは、氷河ツアーです。なぜかといふと、いろいろな動物に出会えたからです。そして、アラスカとテキサスは気温が全くちがひ、アラスカにはたくさん山があります。

同じアメリカだけど、ちがう国にいるような気持ちになりました。次は、冬のアラスカでオーロラを見てみたいと思います。

## 香港旅行

リン 有咲

わたしは夏休みに、家族と香港（ほんこん）に行きました。香港は中国の南の海の近くで、タイペイの南西にあります。日本から飛行機で四時間くらいかかります。香港に行くことはとても楽しかったです。理由は、ポップマートというお店があるからです。とてもかわいいグッズが売っています。空港やモールにお店があります。

あと、香港ではエッグタルトが有名です。わたしは四十分くらい朝お店にならびました。中に入ったとたん、さわやかなにおいがしました。なんと中にはエッグタルトだけでなく、クロワッサンや色々な種類のパンがあつたのでまよいました。けどわたしはエッグタルトとクロワッサンにしました。エッグタルトは外がサクサクで、中はプリンみたいにとろとろでした。わたしはそんなにプリンが好きではないので、エッグタルトよりクロワッサンのほうがおいしかったです。ほつぺたが落ちそうでした。

一番楽しかったのは、ケーブルカーです。ケーブルカーは下がどうめいで、デイズニーのデザインでかわいかったです。天だい大仏（だいぶつ）という大きな大仏のところまで行きました。二十五分くらいケーブルカーに乗りました。ケーブルカーから海や空港が見えました。大仏までは二百六十八段のぼりしました。つかれたけどがんばったので、のぼれました。わたしのおばあちゃんはずいずい後ろからゆつくりのぼってきました。大仏は思ったほど大きくなかったけれど、面白かったです。

ポップマートでほしかったラブブのぬいぐるみは売り切れで、別のお店でラブブを買ってもらえました。楽しい旅行だったので、今度は自分のお金で行きたいです。

## 楽しかったハロウィン

穆 雲晟

ハロウィンで楽しかったことは四つあります。一つ目は、中国語のアフタースクールで、ものすごく多くのおかしをもらったことです。いっぱい教室に行つて、おかしをもらいました。先生だけではなく、友達からももらいました。いろいろなおかしがあつて、とても美味しかったです。

二つ目は、面白いかそうです。ぼくの友達の家に行くと、中国語のミルクです。ぼくのかそうはスパイダーマンです。みなで楽しく戦いました。ほかの子供たちも面白いかそうでした。

三つ目は、パークで遊んだことです。おかしをいっぱいもらいたいなら、列に立たないといけません。パークに着いた時、行列でした。待っている時は、中国人の友達といっしょに遊びました。トイストーリーのかそうと一緒に礼拝したら、チョコレートももらいました。ついに順番が来て、トイストーリーのかそうの人と写真を撮りました。それと、たくさんのおわんから一つずつキャンディーを取って、自分のふくろにいっぱい入れました。

四つ目は、人の家に行つて、おかしをもらったことです。ぼくの友達の家に行きました。最初の家では、いろいろなおかしがありました。二つ目の家では、ラスト一つのチョコレートがあつて、ズモウとじゃんけんして負けましたので、ズモウにゆずりました。三つ目の家では、何もありませんでした。四つ目の家では、同じキャンディーがいっぱいありました。ラストの五つ目の家では、シールもあつて、おかしも最初の家よりも多かったです。ハロウィンの夜は、とっても楽しかったです！

## ハロウィンで心に残ったもの

和歌森 柗太

十月三十一日に、姉の友だちとかぼちやをカービングしました。最初は楽しくカービングすると思いましたが、やってみるとすごくむずかしかったです。最初に、かぼちやの上らへんを切つて、中身を取つて、空にするのです。空になったと思つても全然まだまだで、すごく時間がかかりました。

次に、トリック・オア・トリートをしました。近所を回るだけで何十けんもありました。数けんは、こわすぎてぼくには行けませんでした。ところどころの家には、ぼくの好きなおかしがあつて、だれにも取られないように早く取りました。家へ帰った時には、もうバケツはおかしでいっぱいでした。

ハロウィンは、すごく楽しい日だと分かりました。来年のハロウィンが来るのが待ちきれないです。

## ハロウィンの思い出

松井 健

私がハロウィンを終えて楽しかったことは、近所の家を回つて、たくさんのおかしがもらえたことです。なぜかというところでは、近所を回つてもたくさんおかしをもらえないからです。しかし、アメリカだと近所をたくさん回りましたし、おかしもたくさんもらえましたので、とても楽しかったです。

そして、いろいろな近所の人に会えて、しかも二年生の妹のソレル先生が、近所に住んでいました。その後、ホーンテッドハウスに行つて、私たち家族は悲鳴をあげてびっくりしました。しかし、おかし

はもらえたのでよかったです。その後、たくさんおかしをもらえて、しかもわが家の玄関に置いてあるおかしが全部なくなっていたし、とつてもうれしかったです。その二日前、妹とお母さんといっしょにかぼちゃをくりぬいて、目や鼻や、口をくりぬいて、明かりをつけて、玄関にかざりました。

来年は、今年行った家をもう一回やりたいけれど、スケルトンだけはこわいし苦手だから家ではかざらないでほしいです。

### 楽しかった運動会

加藤 誠志郎

今日は、楽しみにしていた運動会でした。ぼくは、朝起きた時からどきどきしていました。ぼくは、全部で三つの競技に出ました。

一つは、大玉送りでした。大玉送りは、何回も経験したことがあるので、かん単だと思いました。ぼくが思った通りにチームワークで三回勝利しました。この大玉送りで勝ったので、どきどきしていたのがわくわくに変わりました。

二つ目は、デカパンゴーゴーでした。ぼくは、デカパンが好きではありませんでした。なぜなら、女子と男子一緒に走らないといけなかったからです。しかし、女子の人数が足りなかったのでぼくは、男子と走ることに安心しました。デカパンレースでは、三位をとったので、ちよつとくやしかったです。

三つ目の競技は、つなひきでした。つなひきは、すべての試合に勝つてうれしかったです。みんなで協力したので勝ったと思います。

最後に、優勝したのが赤組で、ぼくが赤組だったのでうれしかったです。運動会を通して、勝ち負けではなく、努力と協力の方が大事だと分かりました。

おじいちゃんとおばあちゃん

藤解 雄介

おばあちゃんとおじいちゃんが日本からアメリカに十日間来てくれました。

まず、おじいちゃんとおばあちゃんと最初に行った場所は、オーステインです。オーステインでは、議事どうに行きました。ぼくたちは、議事どうの中に入り、ガイドの人に案内をしてもらいました。そこは、四階もあり、アメリカで一番大きい議事どうだという話を聞きました。おじいちゃんもおばあちゃんもぼくも、大きさにおどろきました。

夜は、ホテルにとまりました。ホテルには、動物とふれ合えるところや流れるプール、それにマシユマロを焼く所までありました。ぼくは、おじいちゃんとおばあちゃんと流れるプールやスライダーに入りました。流れるプールのいきおいにおどろきました。みんなで入れて楽しかったです。朝にはバイキングでごはんを食べました。ポテトやジュースが出てきてうれしかったです。

別の日には、NASAに行きました。火星の石や月をさわりました。つるつるしていて、もつとさわりました。また、実さいに、ロケットを見たり、うちゅう飛行士の訓練を見学したりしました。

次の日には、アストロズ対ツインズの試合をダイキンパークに行きました。最初に点数を入れたのは、ツインズです。そして、アストロズが九回うらで点数を決めました。だから、えん長戦になり、十回にアストロズがホームランを決め、アストロズがぎやく転して、さよなら勝ちしました。おじいちゃんもおばあちゃんも、とてもいい試合だったと言っていました。また行きたいです。

来年、日本に一時帰国するけれど、またいっしょに遊びたいなあと思っています。

「ごんぎつね」 第七場面

林 宥賢

かわいそうなことをしてしまったと思った兵十は、ごんの体をかかえて、ごんが住んでいた森に連れて行ってうめてやりました。そしてその横にくりの木を植えました。ごんのおはかの印です。それから兵十は村の人達に今まであった事を話して、ごんは本当はやさしいきつねだったことを伝えました。

その話は村中に広がって、やがて中山様にもとどきました。中山様は感動して、ごんのためにお祭りを作りました。その名前は『ごん祭り』と言って、くりと松たけを人と分け合って食べる日です。その日はおたがいによさしくすることを考えます。

その後、中山様は火縄じゅうをきん止して、村はやさしくて平和な村になりました。

「ごんぎつね」 第七場面

浅野 秀俊

兵十はすぐにごんを病院につれて行ってごんを医者にあずけました。でもするとその医者はこのいじわるなきつねに手当てをしたくないと言いました。すると兵十はこう言いました。

「前はいじわるでも、ごんはおれのお母さんにいじわるをして死んだことに気がついて、くりや松たけをくれたんだ。きつとおまいにもやってくれるよ。」

すると医者はすぐにごんに手当てをして治しました。

次の日、ごんはあなの中で考えました。

「あの後兵十は、どうやって医者におれの手当てをたのんだんだろう。」

それともくりのことを話したのかなあ。」

その次の日、ごんは兵十の家に行きました。すると兵十は、「ごん、おまいおれのペットにならないか。」と聞きました。ごんは、

「いいよ。」

と言ってごんと兵十は幸せにぐらしました。あの医者は、今でもくりのことを待っていました。

めでたし めでたし

「ごんぎつね」の続き

田中 たける

兵十は、ごんを井戸の横にうめてあげました。兵十は、ごんのおはかに水や麦を毎日あげました。

ごんは天国へいきました。そこでごんは兵十のおつかあと会おうと思つて兵十のおつかあをさがしました。でも見つかりません。ごんはまわりの人に聞いてみることにしました。けれどもまわりにいた人にも「知らない」と言われました。なのでごんは、自分でさがすことにしました。ごんは、一日中さがしましたが兵十のおつかあを見つけたことはできませんでした。次の日もごんは、兵十のおつかあをさがしました。けれどもまだ見つかりません。その次の日もまたさがしました。するとついに兵十のおつかあを見つけました。

おつかあはきつねが好きでした。なのでごんは兵十のおつかあと一緒にくりや松たけを取りました。たまに近くにある川でうなぎをとつていっしょに食べました。それから兵十のおつかあとごんは幸せにくらしました。

「ごんぎつね」を読んでの感想

松尾 英麻

私のごんぎつねを読んでごんの気持ちや行動に大きな変化があるところがとても面白いと思いました。

一つ目は、ごんがうなぎをぬすんで、兵十のおつかあが死んだ後の気持ちの変化です。最初はごんはいたずらばかりしていて、ちがうことを何も考えていませんでした。しかし、兵十のおつかあが死んだ後、ごんはおつかあをかわいそうに思って、「あんないたずらをしなければよかったな。」と後かいました。それから、ごんはくりや松たけを毎日兵十の家に持っていきました。

二つ目は、ごんが「神様のしわざ」と思われた時です。ごんは毎日うなぎのつぐないとしてくりを持って行ったのに、兵十と加助にくりを神様のしわざと思われて、自分がしているのに神様のこういを取られてしまいました。「なんで神様にお礼を言って、自分にはお礼を言わないの？」と残念な気持ちになりました。

三つ目は、兵十が最後に火縄じゅうでうった時の気持ちです。兵十は「ごん、おまえだったのか、いつもくりをくれたのは。」と最後のせりふとして言いました。ごんは自分の行いが兵十に伝わったことが分かってうれしく思いました。

このように、ごんは大きく三つの気持ちの変化があり、とても興味深いお話だと思いました。

ふかふかうく宇宙の世界

吉田 貴志

ほ習校で宇宙セミナーがありました。セミナーに来てくれた宇宙飛

行士は小学校のときに宇宙の図かんや本が大好きだったそうです。そのあと、パイロットレースに参加して宇宙飛行士はかっこいいと思い、宇宙飛行士になろうと思ったそうです。

宇宙セミナーでは、宇宙ステーションの中のことを教えてもらいました。宇宙ステーションの中では、ほとんどのものがふかふかういています。水を飲むときは、重力がほとんどないので、水は丸いままになってしまい、しんちように飲まなければなりません。物を取ろうとすると、急にうかんでしまうこともあるので大変です。

また、地球から宇宙までは、一日くらいで行けるそうです。宇宙ステーションでは、ドローン型のロボットが仲間の仕事を手伝ってくれることも学びました。ねるときはねぶくろの中に入ってねます。セミナーに来てくれた宇宙飛行士は地球に五か月ぶりに帰ったときは、宇宙であまり体を動かさなかったため、リハビリが必要だったそうです。

地球では体験できないことがたくさんあって、ぼくも宇宙に行ってみたいなと思いました。